

瑠璃蜥蜴さみしからずや息合はそ

藤田湘子

俳句を始めて好きになったものがある。蛇、蜥蜴、蜘蛛、蠅虎など。瑠璃蜥蜴はその際たるもので、吟行で見ついたりすると声を上げて喜び、近寄つてその生態を見たくなる。すばしっこくて、すぐに視界から消えて草むらに逃げ込んでしまうが、真青な筋が走つて、その美しさに眼を奪われる。

静かな息遣いが見える孤高の蜥蜴を見ると、さみしくないかい、さみしいではないか。我も息を合わせてお前と共にあろうではないか、などと思つてしまう。

「息合はそ」とは何と深い言葉だろう。小動物と心を通わせた湘子が、今のコロナのご時世に生きていたら、どんな生き様を見せてくれたであろうか、とふと思う。

1996年（H8作）第十句集『神楽』 鑑賞・野本京